

MIT留学報告書

杉本悠太郎



The Great Dome

MIT留学報告書

概要

2018年の9月～12月の期間 (1学期間)、ボストンにあるマサチューセッツ工科大学 (Massachusetts Institute of Technology) にて交換留学生として派遣された。

留学準備

費用

概要を記載する。(表1)

準備期間

留学を開始する前の準備として私が取り組んだことは、奨学金の申請や予防接種、保険加入である。語学については、幼少期に海外に住んでいたこともあり、特に講座を受講するなどはしなかった。奨学金は様々な機関が主催しているが、早くに締め切ってしまうこともあるので、各自で早めに動き出すことをお勧めする。他二つについては大学から指示があるので、それに従えば問題ない。

留学生活

勉学

東大の授業との単位変換 (MITで受講した授業の単位を東大で相当する授業の単位として認めてもらえる制度) を円滑にするため、事前に東大のマテリアル工学科の先生と相談した授業を履修する計画だったが、それらのうちのほとんどが春学期にのみ開講される授業だったため、急遽他の授業を取るようになった。以下に履修した科目を載せる。左欄の数字は科目番号、中央欄は科目名、右欄は単位数を表す。

3.034	Organic & Biomaterials Chemistry	12
3.087	Materials, Social Impact, & Societal Innovation	12
3.14	Physical Metallurgy	12
3.903	Seminar of Polymers & Soft matter	2
UROP	Undergraduate Research Opportunity Program	12

科目の単位数は一週間のうちでその科目に費やす時間数 (授業+実験+宿題) によって表される。上記4つは東大の授業とそれほど変わらない、座学の授業 (ただしずっと楽しい!)、特筆すべきはUROPと呼ばれる研究プログラムである。UROPでは学部生が研究室に所属し、実際に実験を行ったり、論文の執筆に携わったりできる。一般に、課題の量は東大の授業よりもはるかに多く、また知的好奇心を刺激するものにあふれているので、勉強するための題材に困ることはない。さらに学生の態度はとても積極的で、自分から新たな発見を求めることを推奨する気風がある。教授や先生もそれを歓迎しており、生徒からの要望に答えてくれる。

寮・食事

ほとんどの学生が寮に居住しており、そこから通学している。寮は複数あり、そのうちのいくつかに食堂が設置されている。Meal Planというものがあり、それはプリペイド式の食券のようなもので、それを使うことで食事をする事ができる。



Dinner on Thanks Giving Day

私はBaker Houseという寮の一人部屋に住んでいた。留学生は一人部屋が割り当てられていたようである。

留学を終えて

まず最初に、今回留学に行くととても良かったと思っている。東大は間違いなく世界の中でも最高峰の大学だが、他の国の大学で勉強し、異なる価値観を学ぶことは今後の人生に大きな実りをもたらしてくれるだろう。特にMITには世界の様々な場所から多くの学生や研究者が来ており、最先端の技術について知ることができるのはもちろんのこと、キャリアを選ぶ時にも、日本に留まらず世界で活躍することを現実的な選択肢として考えることができるようになった。もし留学に行くかどうか迷っている人がいるならば、私は行くことを強く勧めたい。

表1. 留学費用

収入	
JASSO奨学金	¥320,000
サンディスク奨学金	¥242,220
TOTAL INCOME	¥562,220

支出	
ビザ申請費用	¥39,160
予防接種費用	¥35,145
渡航費	¥242,220
寮費 (部屋代+食費)	¥800,000
生活費	¥320,000
保険料	¥130,000
合計	¥1,566,525

収支	
収入-支出	-¥1,004,305

